



33-1 友鶴号

33 御料馬浮出シ写真(友鶴号・朝日森号・洪波号)
山邊善次郎

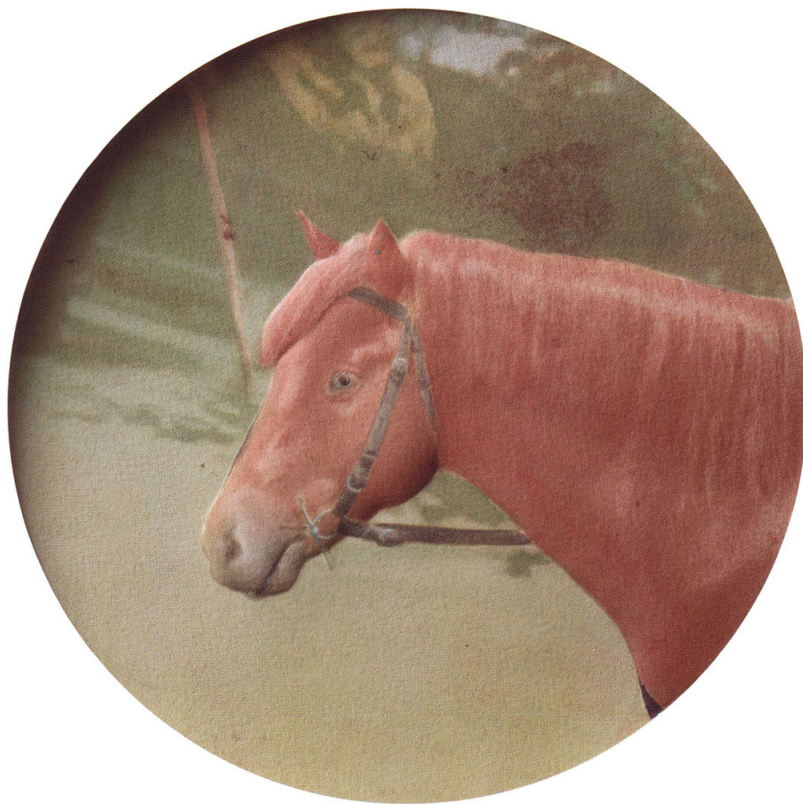
三点

明治三十年代前半
鶏卵紙か・彩色
本紙各径一四・三

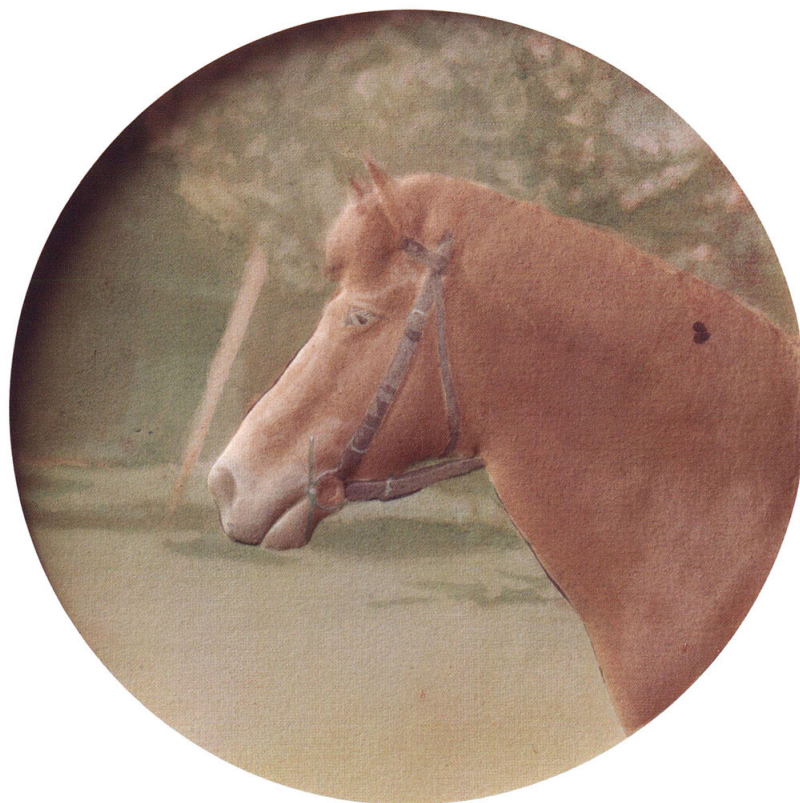
一見水彩画と見紛うこの作品は、「浮出シ写真」と箱書きされる、着色された写真である。明治三十年(一八九七)十一月に山邊善次郎が特許を取得した「写真ニ凹凸ヲ生セシムル方法」を用いて馬像を浮き上げらせ、さらに彩色することによって、平面とは異なる独特の質感を表現している。その手法は型押しとは異なり、印画した厚紙を湿らせ、空気圧縮を利用して像を立体的に膨らませ、さらに厚紙が湿っている間にヘラを用いて細かい凹凸を形作るというものであった。本写真においても馬の口元や鼻孔、轡等の部分に僅かな凹凸が見られる。

御料馬は、乗馬と馬車を引く輓馬に大別されるが、写真の三頭はいずれも御料乗馬で、友鶴号^{ともづる}・朝日森号^{あさひもり}は福島県田村郡、洪波号^{こゑなみ}は金華山号と同じ宮城県玉造郡鬼首村の産であった。三頭ともに明治二十年代前半に買い上げ、または献上となり、同三十年代まで活躍した。中でも友鶴号は、老衰した金華山号に代わって明治天皇の御鞍を戴いて以来、特に寵愛を受けた。明治十九年生まれ、青毛和種の牡馬であった友鶴号は、当初、調教師である目賀田雅周も手を焼く荒馬であったが、その後立派に成長し、演習地での鋭敏沈着とした姿は金華山号に比肩するほどであった。

撮影者の山邊については不明な部分が多いが、明治三十年頃に横浜居留地海岸通十二番館に写真館を開き、大正二年(一九一三)まで営業していたようである。朝日森号・洪波号が明治三十四年十一月に死んでいることから、本写真の撮影・制作は明治三十年代前半に行われたものと推察される。



33-2 朝日森号



33-3 洪波号

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に¹出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

こまくら
駒競べ——馬の晴れ姿

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 73

編集 宮内庁三の丸尚蔵館
制作 株式会社 東京美術
翻訳 黒川廣子
発行 宮内庁
平成二十八年七月九日発行

© 2016, The Museum of the Imperial Collections, Sanmonmaru Shōzōkan